

あいであ & アイデア

# 省力化のための自作餌寄せ機械について

道東あさひ農業協同組合 小島 友喜

## 自作餌寄せ機械

乳牛の飼養管理において、日々の給餌やエサ押しは重要な作業で、常に牛の目の前に必要なエサが途切れることなく置かれている環境が求められており、結果として、生産乳量にも影響を及ぼすことになります。

この作業は、乾物摂取量の増加や乳量アップに対し大きく影響を与えるもので、多くの生産者は1日の中で当たり前の作業として時間を決め、複数回行っています。

今では、自動給餌機等による頻回給餌を取り入れている農家も増えてきているものの、人が手作業でスクレーパーを押してエサを寄せている生産者も未だ多くいるのが実態です。

しかし、人力でサイレージなど重いエサを押していくのは、作業負担が大きいことから、本稿では小型タイヤショベルのマニアホークの爪に取り付ける作業機を製作しエサ寄せ作業の省力化を図っている事例を紹介します。

## 製作方法

材料は排土板2枚（高さ約40cm、長さ2m程度）を使いました。これをV字につなぎ合わせ、つなぎ目に鉄筋等を組み合わせて補強します。この際、通路幅にもよりますが、V字の幅の上限はタイヤショベルのタイヤ幅程度です。



接地面については、鋼板などの材料で補強

鉄筋などで補強  
マニアホークの爪を  
下に忍ばせ持上げる



溶接作業は鉄工所に依頼しました。

製作費は、材料費、鉄工所への支払いを含めて10万円程です。

鉄工所の規模にもよりますが、完成には一ヵ月ほどかかりました。

排土板上部に取り付けた金属製の筒は、マニアホークが簡単に出し入れできる大きさです。

## 使用方法

排土板上部に取り付けた金属製の筒の両端にマニアホークの爪を差し込んで完成です。先端を左右に振りながら走行することで、スムーズにエサを寄せることができます。特に、サイレージなど重たいエサを寄せるときには重宝しています。使い始めは、牛がおびえることもありましたが、数日で慣れ、乳量等への大きな影響はありませんでした。



従来のエサ押し資材  
スクレーパー



マニアホークの爪の差し込み口



現在のエサ押し機械  
※マニアホークの爪を差し込む

## 考案者の感想

機械を製作するまでは、スクレーパーを使い手作業でエサ寄せ作業を行っていましたが、今から15年ほど前に牧草を細かく切断中、誤って機械に巻き込まれ左腕を切断する事故に見舞われました。以来、右腕だけで全ての作業を行うこととなりました。考案者の牛舎は対頭式のつなぎ牛舎で、長さ80mほど。それまで右手ひとつでスクレーパーを押してエサ押し作業を行っており10分ほど掛っていましたが、この機械で走ると1、2分ほどでできるようになりました。エサ押し作業を機械化したことで、大幅に時間短縮となり体力的にもかなり楽になったそうです。

(筆者：道東あさひ農業協同組合営農部)

あいであ & アイデア